



歴史的町並み景観保存のための空地周りの修景手法 のあり方に関する研究 : 兵庫県篠山市・たつの市を 事例として

栗山, 尚子
三輪, 康一

(Citation)

都市計画論文集, 48(3):1053-1058

(Issue Date)

2013

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(Rights)

本著作物の著作権は日本都市計画学会に帰属します。本著作物は著作者である日本都市計画学会の許可のもとに掲載するものです。ご利用に当たっては「著作権法」に従うことをお願いいたします。

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90003100>



150. 歴史的町並み景観保存のための空地周りの修景手法のあり方に関する研究

-兵庫県篠山市・たつの市を事例として-

Study on the framework of historical streetscape protection methods around vacant lots

- A case study of Sasayama and Tatsuno in Hyogo Prefecture, Japan -

栗山尚子*・三輪康一*

Naoko Kuriyama*, Koichi Miwa*

This study identifies variation in the protection methods of the historical landscape on vacant lots and the adjacent buildings in the cities of Sasayama and Tatsuno, Hyogo Prefecture. We documented the current condition of vacant lots, design on the sides of adjacent buildings, and viewed the vacant lots from the main street by means of fieldwork, interviews, and housing maps. We discovered that the open space created by the setback of buildings may negatively influence the continuity of the historical streetscape, resulting in disorder due to the parked cars facing the main street. As a conclusion, we indicated the framework of the protection methods of the historical landscape around vacant lots.

Keywords: historical streetscape, vacant lots, landscape protection methods
歴史的町並み景観、空地、景観保存手法

1. 研究の背景と目的

日本の町並み保存の動きは1960年代半ばに始まり、近年、歴史的町並みを保存する動きは継続的に広がりを見せ、全国各地で景観まちづくりが行われ、現在も国による重要伝統的建造物群保存地区（以下伝建地区と記す）の選定や県条例の景観形成地区の指定が増加している。しかし人口の減少、土地・建物の権利関係の問題、住民の歴史的町並み保存への関心の低さ、建物の老朽化等が関係し、維持が困難な歴史的な建築物は多く、空地・空家の増加がみられる。特に空地の増加により、建物の壁面線や屋根のラインが分断されることにより、連続性のある歴史的町並み景観が崩れていく危機が常にある。市の空地の買取り等の対策では、費用面等で限界がある。今後空地の増加が予想される中で、空地ができた際の歴史的町並み保存の対策や手法は十分であるとは言いがたい。そこで、本研究では、行政・建築家・住民へのヒアリング調査、住宅地図の分析、現地調査によって、空地の利用状況、空地の隣地建物の側面の特徴と通りからの見え方を把握し、歴史的町並み保存のための空地周辺の修景手法の考え方の枠組みを示すことを目的とする。

既往研究を概括し、本研究を位置づける。加藤らは相続による権利移転による空家・空地の発生と、伝建地区の選定後の新築物件の激減を指摘している¹⁾。神吉らは、全国の伝建地区の行政へのアンケートから、空家・空地の活用状況や活用方法と活用意識との関係を明らかにしている²⁾。西山らは空家・空地の発生過程からみた持続的な居住環境づくりを論じ、空家が損傷し解体され空地化する例が多いことを指摘している³⁾。いずれも空家・空地の問題意識や活用状況に着目している。また歴史的町並みの修景手法に関する研究は、小林らが街並み景観データベースを活用してまとめり分布グラフでの修景効果を表現する手法を開発している⁴⁾。増井らは重伝建地区の保存計画の枠組みと基

準運用の実態分析から、隣接建物や近隣建物の現状が、歴史的町並み保全の方向性に影響を与えると示唆している⁵⁾。修景方法の技術は景観シミュレーションに関する多くの研究で追求されているが、社会で適用可能な手法は自治体でマニュアルやガイドラインという形でまとめられている⁶⁾。しかし、空地及び空地の隣地に着目し、その周辺の景観に関する研究は十分なされていない。以上より、本研究は歴史的町並みについて、特に空地の隣地建物の側面の状態に着目し、空地及び空地の隣地に対する修景手法の考え方の枠組みを構築している点が特色である。

本研究の構成は、2章で調査対象地区の概要を述べ、3章で、行政・建築家・住民へのヒアリング調査から、各主体の空地に対する意見を把握する。4章で、現地調査と住宅地図の分析により、空地の状態と変遷を把握する。5章では、空地の利用状況、空地からみえる隣地建物の側面の状態、通りからみた側面の見え方の特徴についての知見を得る。6章は本研究で得た内容を総括し、空地周辺の修景手法の考え方の枠組みを提示し、まとめとする。

2. 調査対象地区の概要

本研究では、①空地の影響が大きいと考えられる、町家等の建築物が建て詰まった（ていた）歴史的町並みが残っている地区、②国からの伝建地区の選定や県からの景観形成地区の指定を受けている地区、③妻入町家が連続する町並みと平入町家が連続する町並みを比較できる地区を選出することにした。以上の条件を基に、2004年に伝建地区に選定された、兵庫県の「篠山市篠山伝統的建造物群保存地区（城下町篠山の町並み）」内の旧商家町（河原町妻入商家群）と、現在伝建地区の選定を目指しており、1990年に兵庫県景観形成地区に指定されている、「たつの市龍野

*正会員 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻（Kobe University）

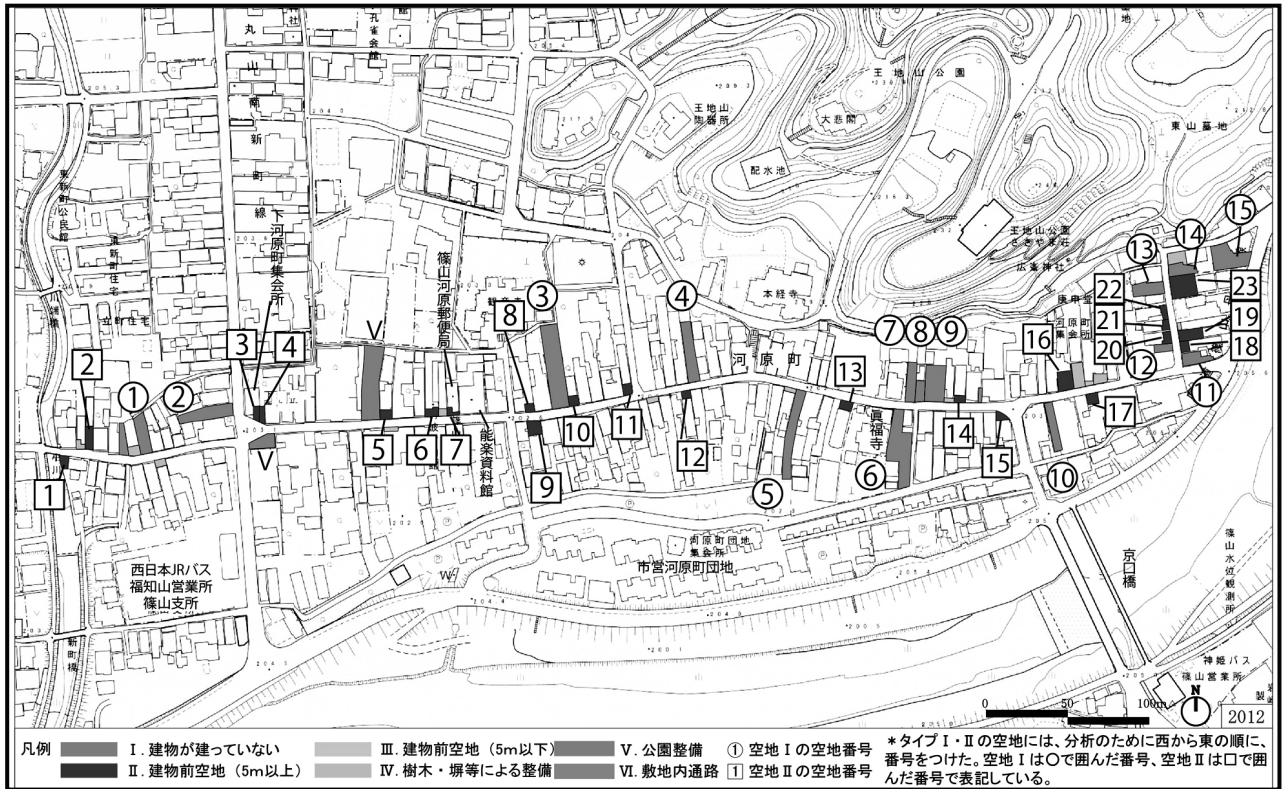


図-1 篠山市の空地調査結果図



図-2 たつの市の空地調査結果図

地区歴史的景観形成地区」内の町家ゾーンの町家景観通り沿い²⁾の2地区を調査対象地区に選出した(図-1、2)。

3. 空地に対する意見

空地のできる原因や、町並み保存に關しての空地に対する意見を探るために、町並み保存に關わる行政・建築家と空地の所有者等と空地の隣地の住民に、ヒアリング調査を実施した。質問項目や結果等を表-1、表-2に示す。

篠山は行政・専門家共に、現状の空地はあまり問題視していないことを把握した。理由は、伝建地区選定以後空地があまり増加しておらず、伝建地区の修理事業の物件が多いため、建物の修理がより重視されているからだと推測される。また、専門家は駐車車両が町並みを阻害していることを問題視している。一方、たつの市の行政は空地を問題視しているが、現在は独居老人の問題から派生する空家の増加を懸念している。専門家は現在伝建地区選定の活動に重点を置いているが、町並みの連続性の喪失を問題視している意見を得られた。

表-1 行政・建築家へのヒアリング概要

<p>■ヒアリング実施要領</p> <p>【篠山市】2012/10/18に、篠山市教育委員会社会教育・文化財課1名。2012/12/7に、篠山市で建築事務所を営む建築家1名に実施。</p> <p>【たつの市】2012/11/22に、たつの市都市建設部町並み対策課1名。2012/11/16に、たつの市で建築事務所を営む建築家1名に実施。</p>
<p>■ヒアリング項目</p> <p>空地が町並み保存に与える影響や課題／空地の発生や管理、その後の更新状況／空地の活用・修景等。</p>
<p>■ヒアリング結果(抜粋)</p> <p>(1) 空地が町並み保存に与える影響や課題</p> <p>【篠山市】・行政：建物の修理で補助事業を活用する要望が多く、積極的に空地を修景していく要望を行政からは出しにくい現状がある。家の前の街路沿いの駐車スペースの殆どは、伝建地区に選定される前からある。今後駐車スペースを修景する動きがあるなら、塀などで目隠しする等、周辺の景観と調和するような対応をしてもらいたい。</p> <p>・建築家：空地の増加の印象はないが、空地を増やさないことは重要だと考える。間口が約7mの土地が多く、空地の活用は難しい。セットバックしている場所の駐車車両が景観を乱していると感じる。</p> <p>【たつの市】・行政：以前は市が空地・空家を買取り、整備することがあったが、現在は費用面で困難。現在は独居老人が多く、今後の空家の増加を懸念。空地の活用よりも、まずは空地を増やさない事が大事。</p> <p>・建築家：町並みの連続性が失われるためよくないと感じてはいる。空地の活用(朝市等)を考える必要はあるが、実行には移せていないようだ。</p> <p>(2) 空地の活用・修景等。</p> <p>空地の隣にある建築物の壁面整備の方法等(建築家)</p> <p>【篠山市】元の壁面は上部が漆喰で下部は板張り、土壁のまま、板張りの痕跡がない等いろんな事例がある。厳密な保存することが文化財保護の観点ではよいが、管理等を考慮すると、板張りの選択が多い。建物修理の際に、側壁面も一緒に修景する。</p> <p>【たつの市】空地に合った建物の跡が残ったものや、トタンや、板・漆喰など多様な壁面が建築物の側面にある。空地の隣地ではないが、古い建物の修復を行なう所有者が、隣人に壁面を一緒に直すように提案し、実行した例がある。</p>

空地の所有者等や空地の隣地の住民の意見は、篠山市では、歴史的町並み保存のために空地はない方がいいという意見を得られたが、生活上駐車場が必要なため、伝建地区選定以前に駐車場に整備したという情報を3名から得た。たつの市では、県の景観形成支援事業(助成事業)ではなく、県民まちなみ緑化事業により、駐車場利用している空地の地面を緑化した事例があり、景観に関する助成制度はあるが助成金が少ないことと、アスファルト地面は熱がこ

もるため緑化したという空地の所有者の意見が得られた。以上より、空地を町並み保存上では問題ととらえている意見はあるものの、駐車場の需要が高く、空地の駐車場利用の意向があることを把握した。

表-2 空地の所有者等と隣地住民へのヒアリング概要

<p>■ヒアリング実施要領</p> <p>【篠山市】所有者等5名(所有者4名、借地人1名)。隣地の住民2名。所有者等5名の空地は、伝建地区選定前から空地である。</p> <p>【たつの市】所有者等4名(所有者3名、管理者1名)。隣地の住民3名。※所有者がわかっている空地をヒアリング対象として選出し、訪問調査を実施。空地の隣地住民は調査時に在宅であった方のみにヒアリングを実施。実施日は、2012年11月下旬～12月中旬。</p>
<p>■ヒアリング項目</p> <p>共通質問：町並み保存上の空地に対する問題意識／空地横の建物の壁面整備について／空地になった経緯・現状・管理(所有者等のみ)。</p>
<p>■ヒアリング結果(抜粋)</p> <p>(1) 町並み保存上の空地に対する問題意識</p> <p>【篠山市】・所有者等の3名は問題意識有。隣地住民は問題意識なし。</p> <p>・伝建地区だから空地はない方がいいという意見もあれば、もともとから空地なので気にしていないという意見もあった。</p> <p>【たつの市】・所有者等は全員問題意識有。隣地住民2名は問題意識有。</p> <p>・空地の増加で過疎化のイメージがある。駐車場が目立って、町の個性がなくなるといった意見や、町並みの連続性がなくなるといった意見もあった。</p> <p>(2) 空地横の建物の壁面整備</p> <p>【篠山市】・所有者等は、焼き板は長持ちなのでよいという意見があった。</p> <p>・隣地住民は、建物を修理する際に、壁面も整備(腰板のような仕上げと塗り仕上げ)する予定とのこと。整備済み隣地住民は、老朽化した土壁を補修するために、トタン板を張ったという意見があった。</p> <p>【たつの市】・所有者等の意見で、空地にする際(建物を壊す際)に横の建物の壁面が丸見えにならないように、まっすぐに板を張り、将来伝建になることを意識して整備したという意見があった。</p> <p>・隣地住民の中には、現在トタンで覆っているところを将来的に整備していく予定という意見があった。</p> <p>(3) 空地になった経緯・現状・管理(所有者等)</p> <p>【篠山市】・5名中4名が空地を駐車場として活用。空地だった土地を購入し、貸駐車場にしている(1名)。建物を壊して駐車場として整備(2名)。空地を所有しており、駐車スペースの必要性から店舗駐車場と貸駐車場を整備(1名)。倉庫を建てて利用(1名)。</p> <p>・今後空地を景観保存のためにお金をかけての整備予定はないとのこと。</p> <p>・門をつける予定だったが、ご主人がなくなり、予定がなくなった。</p> <p>・伝建地区選定を知っていたら、空地にしまったという意見あり。</p> <p>・管理上、雑草の問題、ゴミの不法投棄の問題が挙げられた。</p> <p>【たつの市】・駐車スペースの必要性から空地を駐車場として整備(2名)。土地の購入当初から月極駐車場であったためそのまま利用(1名)。建物の老朽化のため建物を除却した(1名)。</p> <p>・駐車場を緑化した事例があり、その理由はアスファルト舗装では、熱がこもると、町並み保存助成よりも緑化助成の方が活用しやすいかった。</p>

4. 空地の状態の分類と空地の変遷

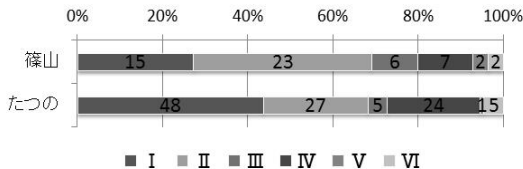
4.1 空地の状態の分類

2012年8月～12月に、現地調査を実施し、空地の状態を把握した。調査方法は、2011年の住宅地図と現地の空地の状況を照合し、レーザー測距機で空地の寸法を計測し、目視により空地の利用状況を確認した。本研究では、通りに面して建築壁面が連続していない土地の区画全体や土地の区画の一部を空地とみなす。現地調査結果(図-1、2)に基づき、空地の状態の分類を6つ設定した(表-3)。Iは区画全体が空地で、II・IIIは区画の一部に建物が建っておりその前が空地の場合と設定する。各空地の状態の分類の空地数と比率は図-3の通りである。全空地数は篠山で55件、龍野で110件である。篠山では建物前空地のIIやIIIが多く、その中でもII(空地の奥行き5m以上)が多い。たつのではIが48件と多く、建物が建っていない区画が多い。以上より、篠山とたつのの空地の性格が異なることを

明らかにした。本研究では、空地の隣地建物の側面が街路景観に与える影響が大きいと考えられるタイプⅠ・Ⅱを次節以降の分析対象とする。以後、空地の分類Ⅰ・Ⅱと、篠山とたつのを英字で表現し、篠山の空地分類Ⅰ・ⅡをSⅠ・SⅡ、たつの空地分類Ⅰ・ⅡをTⅠ・TⅡと表現する。

表一 3 空地の状態の分類

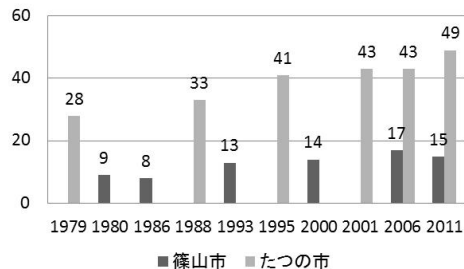
分類	説明
I：建物建っていない	未利用の土地・駐車場利用の土地等で、建築物が建っていない土地の区画。
II：建物前空地（5m以上）※	前面道路から5m以上セットバックして建築物が建っている。
III：建物前空地（5m未満）※	前面道路から5m未満のセットバックがあり、建築物が建っている。
IV：樹木・塀等による整備	門、塀、樹木等により、道路から空地への見えを遮っているもの。
V：公園整備	公園として整備されている。
VI：敷地内通路	敷地内通路として利用されている。
※前後直角駐車が可能で寸法 ⁶⁾ から、5mと設定した。	



図一 3 空地の状態の分類ごとの数と割合

4.2 空地の変遷

空地の経年変化を把握するため、住宅地図³⁾の分析を行った。分析に用いた各市の住宅地図の年代は図一 4に示すとおりである。SⅠは1986年から2006年の間にその多くが空地となった。2004年に伝建地区に選定されたが、ヒアリング調査で「伝建地区になるとわかっていたら、建物を除却して空地にしなかった」という意見があり、伝建地区選定は空地の増加を抑制する効果があると考えられる。空地化の経緯は、駐車場の必要性から空地化した事例をヒアリング調査より確認した。TⅠ・TⅡは、継続的に増加し（図一 4）、空地化の経緯は、篠山と同様、駐車場が必要のための空地化と、安全のため老朽化した空家を壊し空地化した事例をヒアリング調査で確認した。



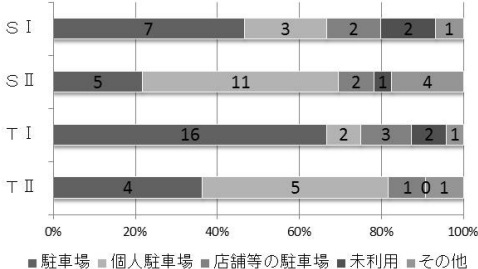
図一 4 空地数の変化

5. 空地の利用・空地の隣地建物の側面の特徴と見え方

5.1 現在の空地の利用

現地調査による空地利用状況の結果を示す（図一 5）⁴⁾。駐車場（駐車場、個人駐車場、店舗等の駐車場）の割合が、

SⅠ80%、SⅡ78%、TⅠ88%、TⅡ90%と、両市共に非常に高い。現在未利用・その他に分類した空地の計測した間口と奥行き寸法は、前後直角駐車が可能で最小の寸法（間2.3m以上、奥行き4.7m以上）⁶⁾より大きく、今後も空地の駐車場利用の増加が考えられる。



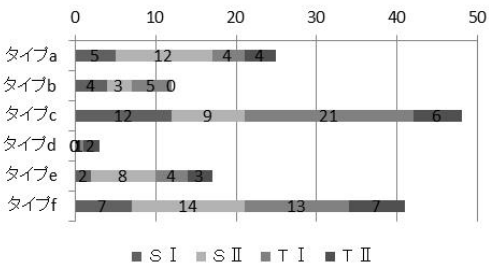
図一 5 空地の利用状況

5.2 空地の隣地建物の側面の特徴

空地ができることによって、空地の隣地建物の側面が通りから見えることになる。空地周辺の修景手法の検討に活用する知見を得るため、その側面の特徴を把握することにする。詳細に調査した空地が73件あるため、調査した側面の数は146面である。空地の隣地建物の側面の調査の結果に基づき、タイプa～fの6タイプを設定し分析する（表一 4）。空地の側面のタイプの集計結果を図一 6に示す。

表一 4 空地の隣地建物の側面のタイプとパターン図

タイプの説明	妻入町家の側面	平入町家の側面
タイプa：屋根ラインと壁の分節ラインが平行		
タイプb：屋根ラインと壁の分節ラインが平行でない		
タイプc：壁面全体が1つの素材で覆われている		
タイプd：空地にあった建物の屋根ラインの跡が読みとれる補修がみられる。		
タイプe：側面の壁の雁行や建替え等で複雑な形態のもの。タイプa～dに該当しないもの。		
タイプf：隣地も空地で、建物側面がないもの。		



図一 6 調査対象空地の隣地建物の側面のタイプ別面数

調査の結果、タイプcが48面と最も多いことが明らかになった。またその素材は、グレーのトタン、経年劣化による錆びの目立つトタン、歴史的町並みを意識した木目調の

トタン、焼き板等、種々の素材がみられる。町家は格子やむしこ窓、下屋などによる細かな要素で構成されており、小スケールで連続性のある町並みが形成されているため、1つの素材で分節のないタイプcの壁面が通りから見える景観は、歴史的町並みの中では異質なものであると考えられる。

篠山市は伝建事業による修理・修景の際に壁面の修景を推奨しており、タイプcの次にタイプaの数が多という結果を得た。篠山には空地の隣地建物の側面が古いままのものが現在もみられるが、今後も伝建事業による助成を活用して、隣地建物の壁面を妻入町家のタイプaの状態に修景することが可能だと考えられる。一方たつのでは、タイプcが、TⅠの空地に面する側面のうち21面を占め、タイプcの数の多さが際立っていることが明らかになった。

5.3 隣地建物の側面の通りからの見え方

本節では、空地の隣地建物の側面の通りからの見え方について考察を行う。地域性を考慮した歴史的町並みの保存の観点から、空地の隣地建物について、篠山市の場合は伝建地区の保存計画⁷⁾で伝統的建造物と定められた建築物の中で妻入町家を、たつの市の場合は街並みに関する既往調査⁸⁾で伝統的様式の建築物もしくは伝統的様式を小改造・中改造した建築物の中で平入町家を分析対象とする。そして空地の立地（角地の有無）と空地の連続性の掛け合わせによる4タイプを設定し、分析対象建築物の側面の通りからの見え方を考察する（表一5）。なお、空地の連続は、現地調査結果（空地の舗装状態の差異、区画境界ロープの有無等）と住宅地図を照合し、1区画空地か否かを判断した。

表一5 分析対象建築物の側面のタイプ分け

タイプ説明	妻入の平側（篠山市）	平入の妻側（たつの市）
タイプA: 非角地・1区画空地 S-8面、T-6面。	SⅠ:1右(a)*、2左(a)、4左(c)、10右(a) SⅡ:2右(c)、8右(a)、12左(c)、13右(a)	TⅠ:1右(c)、7左(c)、7右(c)、17左(a) TⅡ:1左(a)、2右(a)
タイプA': 非角地・連続空地 S-3面、T-6面。	SⅠ:3左(c)+Ⅱ-10** SⅡ:4右(a)+Ⅱ-3、6左(c)+Ⅱ-7	TⅠ:19左(a)+18右(b)、20左(b)+21右(c)、22左(c)+Ⅰ-23 TⅡ:4左(c)+Ⅱ-3
タイプB: 角地・1区画空地 S-1面、T-1面。	SⅡ:15右(c)	TⅠ:9左(c)
タイプB': 角地・連続空地 T-3面。	該当なし	TⅠ:5左(b)+6右(a) TⅡ:6左(c)+Ⅰ-10+Ⅱ-5
*「SⅠ:1右(a)」とは、篠山の空地タイプⅠの空地No.1について、空地に向かって右側の建物の側面のタイプはa（屋根ラインと壁の分節ラインが平行なタイプ）という意味である。 ** SⅠの列のタイプA'の「3左(c)+Ⅱ-10」は、篠山の空地タイプⅠの空地No.3の左側建物の側面タイプはcで、SⅡ-10番の空地と連続しているという意味である。		

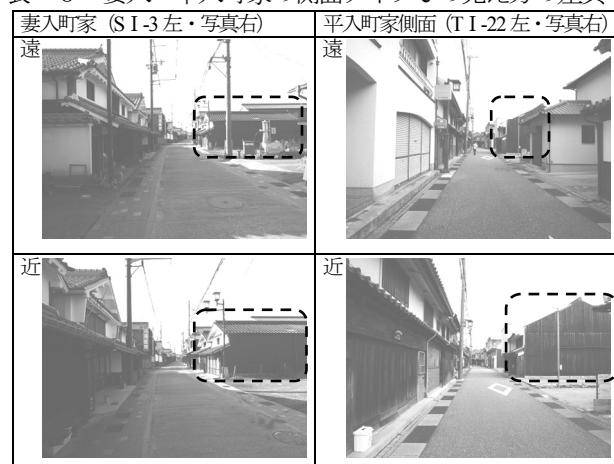
(1)非角地空地の隣地建物の側面の見え方（タイプA・A'）

連続的な歴史的な通りの町並みにおいて、空地の出現により、通り沿い建物の壁面線の分断、1階の底ラインの分断、ファサードの統一された素材の分断が確認できた。表一6に示すように、篠山の妻入町家は高さの低いものが多く、建物の側面の立面積の3分の1から4分の1程度は、

瓦屋根が占めることから、空地の隣地建物の側面の壁の面積は小さく、通りから瓦がよく見える。一方、たつの場合は、空地によって平入町家の妻側の面の1面がよく見える。篠山と比較して、建築年代が新しい建物が多く、高さの高い平入町家が多く、空地に面する妻側の面の面積が大きい。単一素材で構成される面の面積が大きいことから、細やかな歴史的町並みのスケール感になじみにくい景観が生まれている。また壁面がトタンの場合はグレー1色のトタンやメンテナンスがされていない錆びの多いトタンによって、町並みがさびれた印象になる状態がSⅠ-4、TⅠ-1等でみられた。タイプA'の空地が連続する場合は、空地の間口幅が広くなることにより1階の底ラインの分断が顕著となり、通りから見える隣地建物の側面の面積は大きくなる傾向を把握した。

Ⅱのセットバック空地は、奥行きが前後直角駐車のみ可能な寸法しかない場合があり、その場合は道路と敷地の境界線に塀などの修景は困難である。特に連続空地の場合は、空地の間口幅が広くなるため、駐車台数の増加と、空地の隣地建物の側面の可視面積の増加を確認できた。特に、空地Ⅱに建っている建物の正面、隣地建物の側面、セットバック部分の駐車車両と、視界に入る要素が多くなる現状が、SⅡ-13の空地で確認できた。Ⅱのセットバック空地の場合は、塀を隣地境界線上に立てるため、タイプcの側面の可視面積の大きさを軽減することが、SⅡ-6の空地とでみられた。

表一6 妻入・平入町家の側面タイプcの見え方の差異



(2)角地空地の隣地建物の側面の見え方（タイプB・B'）

角地にある空地は、交差点での開放性が高く、角地の道路に接していない区画の2辺の隣地建物の側面の可視性が高いことと、角地の空地も駐車場としての利用が確認できた。交差点であるがゆえの交通量の多さと、駐車場からの車の出入りの両方を考慮すると、交差点側に修景のために塀等を設置するという手法は現状に合わないと考えられる。

6. まとめ

本研究で得た知見をまとめる。篠山とたつのの空地の状態は、たつのの方がタイプⅠ（区画全てが空地）が多く、伝建地区選定を目指しているたつのの空地数の増加を把握した。空地は駐車場利用が多く、現在未利用の空地についても寸法上は前後直角駐車が可能であり、今後の空地の駐車場利用の増加が予測できる。空地の隣地建物の側面状態は、単一素材の側面であるタイプcが多く、妻入町家の側面では、瓦屋根と壁面が通りから見えるが、平入町家の側面は壁のみが通りから見え、細やかなスケールの歴史的景観には合いにくい状態であることを明らかにした。

以上の知見をふまえ、歴史的町並み保存のための空地周辺の修景手法の考え方の枠組みを提示する（図－7）。まず空地化を防ぐことが第一であり、種々の伝建地区等で空家の空地化を防ぐための空家の利活用が進められている。それでも空地化した場合は、空地そのものと空地の隣地の両方への修景が考えられ、また空地の状態に応じた修景手法の適用が歴史的町並み保存のためには重要だと考える。奥行きが十分ある空地（タイプⅠ）の場合は、通りから駐車車両が見えないように、空地の奥での駐車場の設置を推奨し、道路境界に通りの景観イメージに合う門・塀等を設置することを推奨する。前後直角駐車しかできない奥行きが短いタイプⅡの空地の場合は、空地の隣地建物の側面の可視面積を減らすために、隣地境界に通り景観イメージに合う塀の設置の推奨が可能だと考える。

空地の隣地建物に関しては、細やかなスケール感をもつ歴史的町並みにおいて、側面がタイプc（単一素材で側面を全て覆ってしまう場合）の場合が、景観スケールの違和感を生みやすいことをふまえての側面の修景が考えられる。側面の素材がトタンの場合は、トタン色の指定やトタンそのもののメンテナンス（錆びたものを放置しない等）の推

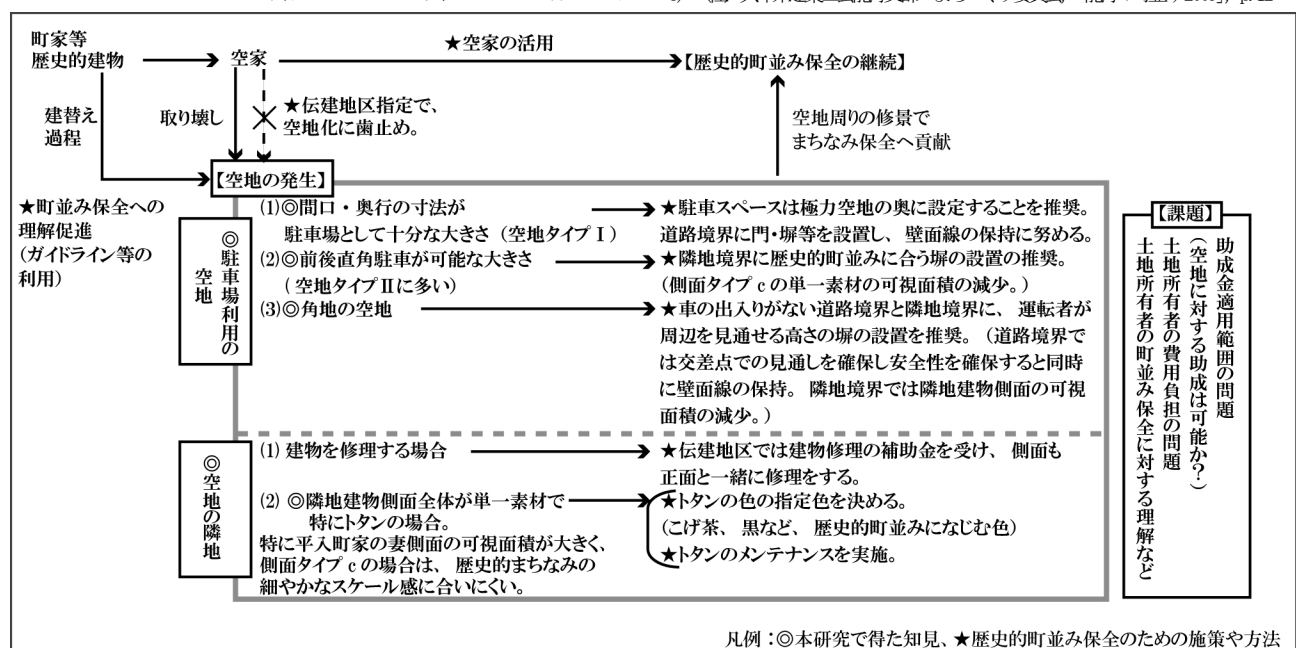
進等が、取り組みやすい手法だと考えている。以上のように空地の状態と空地の隣地建物の側面に応じた修景により、歴史的町並み保存の継続につながると考えている。

【補注】

- (1) 兵庫県景観ガイドライン（景観形成地区等）、兵庫県景観建築デザインマニュアル等があり、道路沿いの建物ファサードのデザインの修景手法等がまとめられている。
- (2) 空地の数の把握（図－2）に示す町家ゾーン内の空地を対象に調査を行った。空地の周りの景観の詳細の調査範囲は、複数本の町家景観通りの中で、歴史がまちまちなみ比較的に残っている南北方向の1本の通りとその通りと連続する東西方向の1つの通りに限定した。
- (3) 古い年代の住宅地区での空地ⅠとⅡの判断が困難であるため、空地Ⅰを中心に調べた。
- (4) 個人駐車場・店舗駐車場・駐車場・未利用・その他で、空地の利用状況を把握している。“駐車場”とは、個人駐車場でもなく、店舗駐車場でもなく、駐車場を、“駐車場”と判断した。

【参考文献】

- (1) 中島宏典・迫田太志・加藤啓司（2007年）、「八女福島における空き地・空き家発生メカニズムに関する研究—土地・建物調査 その2—」, 日本建築学会大会学術講演要録集F-1, pp. 683-694, 日本建築学会
- (2) 山崎純司・棚田久・神吉純世子（2001年）, 「歴史的まちまちなみ保存地区における空き家・空き地の実態と活用—その1—全国伝建地区にみる空き地・空き家の現状と活用事例—」, 日本建築学会大会学術講演要録集F-1, pp. 849-850, 日本建築学会
- (3) 長野麻里子・花岡一郎・西山徳明（2007年）, 「広島県宮島町蔵書軒門前町における町並み保全に関する研究 その4—空家・空地の発生プロセスからみたまちまちなみ居住環境づくりの課題—」, 日本建築学会大会学術講演要録集F-1, pp. 689-690, 日本建築学会
- (4) 古市修・小林正美他（2012年3月）, 「歴史的景観データベースを活用した歴史的街並み再生の方法論に関する研究—岡山県高梁市における景観調査の視覚化と町並み形成制御による修景効果の検証—」, 日本建築学会計画論文集 77(673), pp. 619-628
- (5) 牛谷直子・明智 圭子・増井 正哉他（2002年11月）, 「重要伝統的建造物群保存地区における修景実態に関する研究」, 日本建築学会計画論文集 (561), pp. 211-216
- (6) 日本建築学会編（2005年）, 『第3版コンパクト建築辞書資料集』, p. 96, 丸善
- (7) 篠山市（2011年12月変更）, 『篠山・篠山伝建地区の町並み保存計画』, p. 7
- (8) (社) 兵庫県建築士会神戸支部・まちづくり委員会（「歴史的町並み2009」）, p. 12



図－7 歴史的町並み保存のための空地周辺の修景手法の考え方の枠組み